

身近な食材でも・・・

モロヘイヤ（シナノキ科）



写真提供：（独）農研機構動物衛生研究所

実際にあった事例

平成8年11月、長崎県の農家の牛が種子のついたモロヘイヤを食べ中毒死しました。中毒症状として食欲不振、下痢、起立不能、沈うつ、体温低下、心拍微弱が報告されています。異常を呈した成牛3頭及び子牛1頭のうち、成牛3頭が死亡しました。

モロヘイヤ（シナノキ科）

モロヘイヤは、シナノキ科の植物で、中東、アフリカ、インド東南アジア地域などで広く栽培されています。モロヘイヤの種子や莢（さや）に強心配糖体（強心作用のある成分）が含まれることが知られており、誤食するとめまいやおう吐などの中毒症状がおきます。食用にされている葉には強心配糖体は含まれていないことが、国立医薬品食品衛生研究所の調査で確認されています。

近年、健康食品として注目されているモロヘイヤだが、家庭菜園の場合は、種や莢（さや）を食べないように注意が必要なんじゃ。



モロヘイヤの種子



モロヘイヤの莢（さや）

写真提供：（独）農研機構動物衛生研究所

家庭菜園では種子や莢（さや）に注意しましょう

家庭菜園でモロヘイヤを栽培する場合には、収穫時期に留意し、種子や莢（さや）を食べないように注意しましょう。また、市販の種にも、強心配糖体が含まれているので、子供が食べないようにする必要があります。